

学会長就任のご挨拶

先の選挙にて学会長に選んでいただいた、京都教育大学の土屋英男です。任期の期間、役員の方と共に、学会や学会員の皆様のために全力を注ぐ所存ですので、ご支援・ご協力の程、お願い申し上げます。

さて、来る5月1日に岡・前会長から引継ぎをさせていただき、いくつかの宿題を頂戴しました。これらも含めて、私および役員の方々が学会でしていかなければならないことについて、述べさせていただきます。

まず、学会の財政の健全化があります。学会の財布には会誌の印刷代半年分の余裕しかなく、緊急の事態に対応しがたいのが現状です。健全化への道は、収入を増やす、支出を減らすの二つの方策しかありません。前者は少し時間をかけて、後者はできるだけ速やかに、実施することが肝要でしょう。

次に、学会活動の社会的意義を高めることがあります。これには学会活動の活性化が必要で、農業教育学会に求められる社会的ニーズは何なのか的確に見抜き、速やかかつ効果的に実践することが大切と考えます。ただし学会の財政を圧迫しない範囲内での活動が必要条件となるでしょう。

さらには、学会のすそ野を広げ、学会の社会的価値を高めることが学会の発展のためにぜひ必要であり、そのためにはより多くの会員を獲得することが求められるでしょう。これは財政の安定化にもつながります。会員獲得のためには農業教育学会の存在をより広く人々に知ってもらい、その活動に注目してもらうことが大切です。

こうしたことを実現するために、まずは学会会計の支出の見直しや出版業務における科学研究費などの獲得などの可能性を探っていきたいと思います。また、これまで庶務、会計、編集などの学会幹事がそれぞれ独立して事務局を立ち上げ活動してきましたが、今後は一つの学会事務局のもと、各幹事間で意思疎通を図り、より効率的に仕事を進めることにより、会員の皆様へのサービスを充実できれば、と考えています。事務局全体を取りまとめる事務局長役として庶務幹事の井上博茂先生（京都大学）に、学会を社会にアピールしていただく役として、広報担当・筆頭副会長の岡正明先生（宮城教育大学）に、それぞれその任に当たっていただきます。

これまで実施してきた農業高校生の意見文コンクールは継続していくとともに、この事業がどれ程意義があったのかを探るため、発表者の追跡調査を担当の委員会でも実施していただければ、と考えており、このとりまとめは石井孝昭副会長（ルワンダ国立大学 特別教授）をお願いいたします。

さらに、小・中学校における栽培・飼育教育の発展に寄与することを目指して、『小・中学校の栽培・飼育教材開発コンテスト（仮称）』を教員対象に実施するための具体的な方法を検討し、来年度実施を目指していただく準備委員会を立ち上げたいと考えています。この取りまとめ役には太田弘一副会長（愛知教育大学）をお願いし、本年度の学会総会で会員の皆様にお諮りするつもりです。

以上、所信を表明させていただきました。これらは学会執行部にとって荷の重いことばかりですが、事業の推進のためには、学会員の皆様に叱咤激励いただくだけでなく、多方面でご協力を賜ることが何よりも必要です。学会および構成員の発展のため、学会員の皆様のお力添えをいただきますよう、心よりお願い申し上げます。

平成 29 年 5 月 吉日
学会長 土屋英男